

和の光

宝塚市立西谷中学校



「未という字」

秋葉てる代

「否定の意味をもつ字は四つあります。非・不・無、そして未。」

国語の時間になったこと

非常識、不可能、無意味

否定されるのはかなしい言葉が多い

でも四つの中で「未」だけは

どこかちがっている

未来——まだ来ない。でも、いつかきっと

来るかもしれない。(来るだろう。)

未知——まだ知らない。でもいつかきっと

知るかもしれない。(知るだろう。)

今はないけどでもいつか

否定しながらどこかに希望を残している

パンドラの箱のような「未」という字

私は今何ももたないけれど

「未」という字にかけてみよう

未完成な私の未来に

私は非でも不でも無でもなく

まだ「未」なのだ

みなさんはこの詩を読んでどのように感じましたか？

私は最後の一文、「私は非でも不でも無でもなくまだ「未」なのだ」に共感を覚えました。子どもは本来「未」という存在です。まだ完全ではないけれど希望の持てる存在。学ばなくてはならないこと、直さなくてはならないこともたくさんあるけれど、様々な経験を積むことで、これからどんどん成長していくことができます。たくさんの可能性を秘めた子どもたちには、「未」であることを恥じることなく、自信を持って「未」の先にあるものを探って欲しいと思います。

校長 筒井 啓介

■避難訓練・防災学習を行いました

西谷認定こども園・西谷小学校・西谷中学校が合同で避難訓練を行いました。地震が発生したと仮定し、放送の指示で迅速に避難することができました。避難後には、地区ごとに園児・児童・生徒が集まって顔合わせを行い、緊急時には地区ごとに集まって行動することを確認しました。

続いて、日本赤十字兵庫県支部から岡本昇さんと西嶋莉世さんを講師にお招きして防災学習を行いました。阪神・淡路大震災など災害はいつ発生するか分からないが、備えが大切であること。自分の命は自分で守ることの大切さなど、映像を交えてお話していただきました。また、避難所の運営で役立つ知識として、「簡易トイレ」づくりに挑戦しました。(1月10日)



防災についての講話



簡易トイレの説明



みんなで説明書を確認



協力して作業します



小学生の作業を中学生が見守ります



ついに完成しました！！

■阪神・淡路大震災を振り返る～中学生の手記を通して I～

平成7年1月17日の午前5時46分、壊滅的な地震が神戸市をはじめとする阪神・淡路地区を襲いました。この地震で、かけがえのない命を奪われた人5501人、不明者2名、被災地で不自由な生活を送っている人21万人（平成7年4月6日現在）

神戸市では154人の小・中学生が尊い命を奪われました。また、一瞬にして親やきょうだいを失った人もいます。私たちは決してこの災害を風化させてはならないと思います。まもなくおとずれる1月17日を前に、当時の震災を経験した中学生の記録作文集から2つの手記を紹介したいと思います。ぜひ、最後まで読んでいただき、「命の尊さ」「日常生活の有難さ」などについて考える機会にしたいと思います。

省略

省略